



令和4年12月2日

各 位

上場会社名 ファースト住建株式会社
 代表者 代表取締役社長 中島 雄司
 (コード番号 8917)
 問合せ先責任者 取締役管理部長 東 秀彦
 (TEL 06-4868-5388)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和3年12月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

令和4年10月期通期連結業績予想数値の修正(令和3年11月1日～令和4年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	48,600	3,700	3,600	2,350	169.12
今回修正予想(B)	39,900	3,200	3,100	2,000	143.93
増減額(B-A)	△8,700	△500	△500	△350	
増減率(%)	△17.9	△13.5	△13.9	△14.9	
(ご参考)前期実績 (令和3年10月期)	42,631	3,542	3,497	2,285	164.50

修正の理由

売上高につきましては、当連結会計年度における主力の戸建分譲の販売棟数を集計した結果、当初計画の1,470棟を18.5%下回る1,198棟にとどまる状況となったため、売上高が当初の予想を下回る見込みとなりました。販売棟数を拡大するためには販売用不動産在庫の拡充が必要であるため、分譲用地の仕入を厳選しつつ仕入業務の活性化により仕入棟数の増加に取り組むとともに、工程管理を強化し用地仕入から建物完成までの事業サイクルの短縮に努めてまいりました。これにより、徐々に仕掛在庫が増加したものの、完成棟数の増加は第4四半期以降に集中し十分な販売期間を確保できず、また不動産相場や建築コストの上昇に伴い販売価格が上昇する状況の中で販売につなげることができず、販売棟数は当初予想を下回る結果となりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、建築コストの上昇が生じているものの、これまで分譲用地の仕入を厳選し収益性の改善を進めてきた成果や平均販売単価がやや上昇したことなどにより、利益率は当初の想定をやや上回って推移いたしましたが、売上高の減少に伴い当初の予想を下回る見込みとなりました。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上